

第 1.2 版

NF-Z200/JP ファームウェア アップデート手順書



アプリバージョン： 02.01.0002

監視 IP ・ ポート数： 4

目次

目次.....	1
1. はじめに	2
1.1 本書について	2
1.1 必要な部材	2
1.2 注意事項	2
2. 準備	3
2.1 アップデートツールの解凍.....	3
2.2 Java のインストール	3
2.3 設定値のバックアップ	7
3. アップデート作業	8
3.1 アップデート作業	8
4. 確認	14
4.1 起動の確認	14
4.2 ファームウェア更新に失敗した場合	14
5. その他	15
5.1 保証について	15
5.2 修理のご依頼	16
5.3 お問い合わせ先.....	17

1. はじめに

1.1 本書について

NON フリーズ®（以下、本装置）をご購入・ご利用いただき、誠にありがとうございます。

本書は、本装置のファームウェア（以下、FW）をアップデートする作業手順について記載しています。本書に従い作業をしていただくようお願いいたします。

1.1 必要な部材

- ・ 本書
- ・ アップデートツール圧縮ファイル（unifiedHost-1.19.1.1.zip）
- ・ ファームウェアファイル（V02.01.0002 / 4IP）
- ・ 作業 PC, LAN ケーブル
- ・ Java SE Runtime Environment 8u441（または Java SE Development Kit 8u441）
※Oracle のアカウントが必要です。

1.2 注意事項

作業中の予期せぬ電源切断およびリセット等の禁止

アップデート作業中に本装置の電源を不意に OFF すること、あるいは電源プラグの抜き差しにより本装置を再起動することはおやめください。アップデートに失敗する場合がございます。

VPN および NAT（NAPT）環境下でのアップデート禁止

作業 PC は本装置と同一の LAN 内に設置してアップデート作業を行ってください。遠隔からの VPN 接続あるいは NAT/NAPT によるバーチャルネットワーク環境ではアップデートツールが行えません。

UDP 通信を遮断する設定がある場合は解除しておく

アップデートツール（unifiedHost）では UDP 通信（6234 番ポート）を使用します。ネットワーク内に UDP 通信を阻害するルータ、UTM、ファイヤウォール等がある場合は、アップデートが完了するまで機能を停止してください。

本装置の DIP スイッチ（#1）は OFF

本装置の右側面にある DIP スイッチの 1 番は OFF にしてください。ON の場合、ツールによるアップデートが行えません。

2. 準備

2.1 アップデートツールの解凍

2.1.1 アップデートツールの解凍

アップデートツールの圧縮ファイル（unifiedHost-1.19.1.1.zip）を作業 PC の任意のフォルダに解凍します。

例えば、作業 PC のデスクトップに『アップデート』フォルダを作成し、その中で圧縮ファイルを解凍してください。

圧縮ファイルの解凍は、エクスプローラにて当該の圧縮ファイルを右クリックして表示されるサブメニューから『解凍』 -> 『ここに解凍』を行うことで解凍されます。

2.2 Java のインストール

アップデートツール（unifiedHost）を動作させるにあたっては、作業 PC に Java8u441 以下がインストールされている必要があります。

2.2.1 Java 実行環境の確認

コントロールパネル画面もしくは設定画面（アプリと機能）から Java 実行環境がインストールされているかを確認します。

(a) コントロールパネル画面からの確認

Java が表示されていれば、インストール済みです。

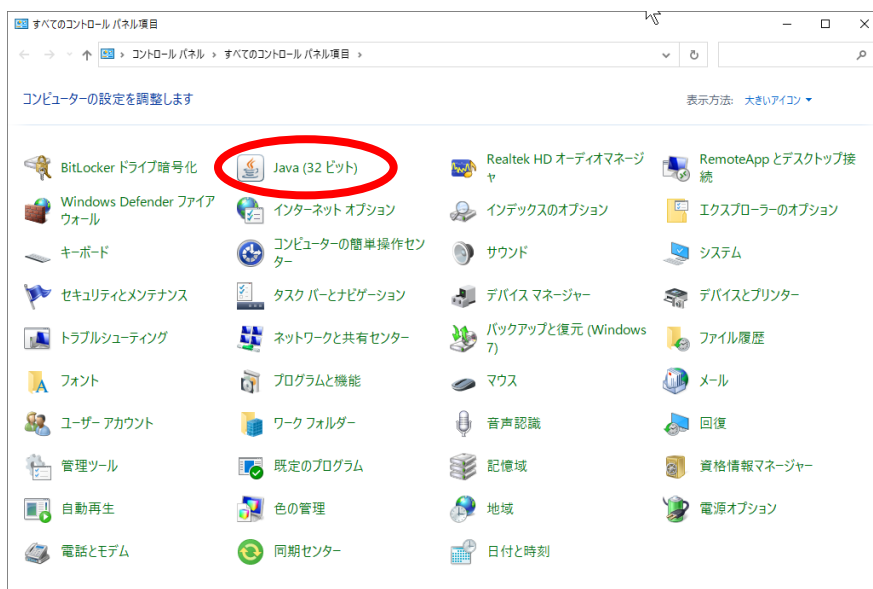
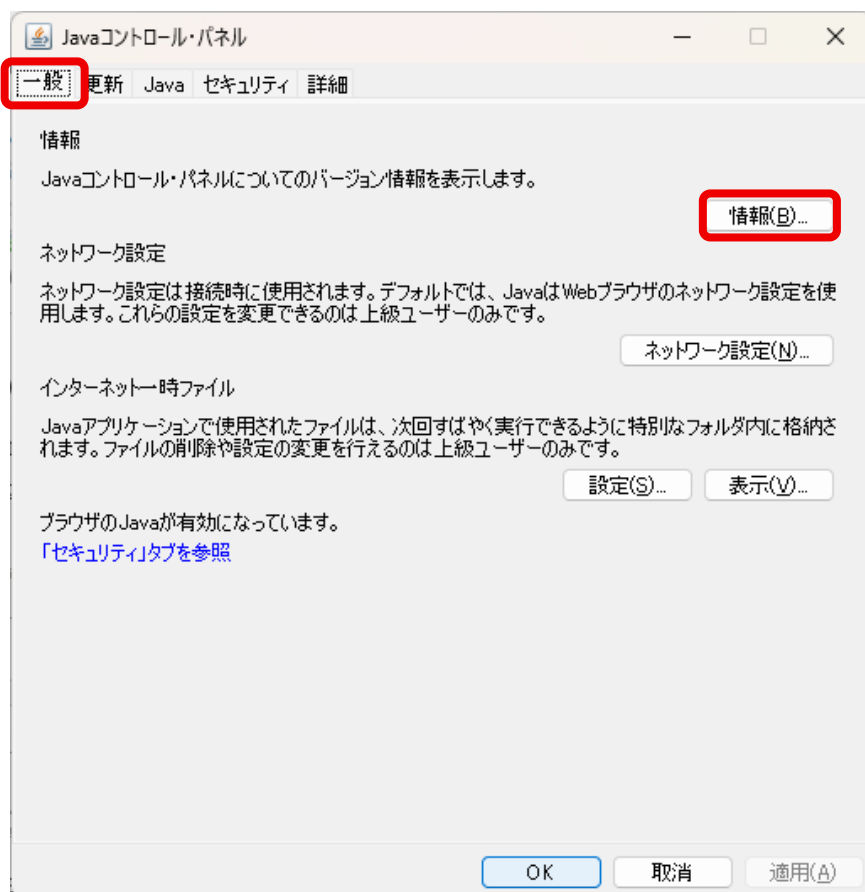


Fig.1 コントロールパネル画面

(ア) インストール済みの場合

1. Java をクリックし、Java コントロールパネルを開きます。
2. 【一般】タブで「情報」をクリックします。



- バージョン情報を確認します。バージョン情報が「バージョン 8 の更新 441」以下であれば OK です。



(b) 設定画面（アプリと機能）からの確認

設定画面から『アプリ』をクリックし、『アプリと機能』画面を表示します。
Java が表示されていれば、インストール済みです。

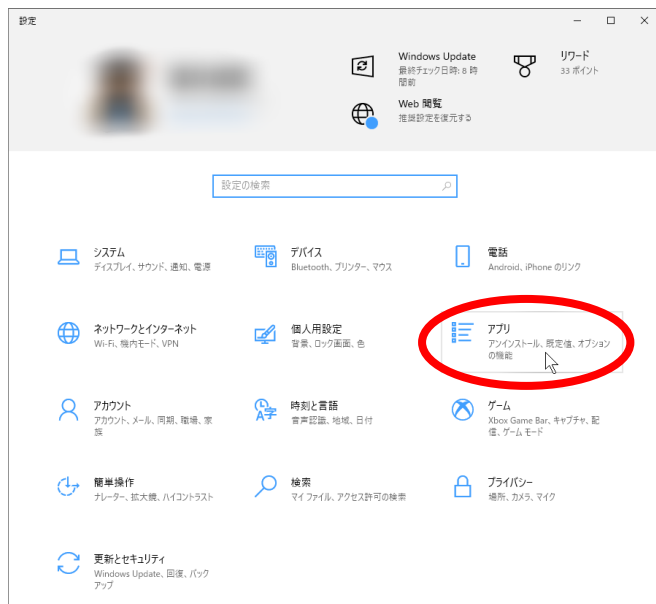


Fig.2 設定画面

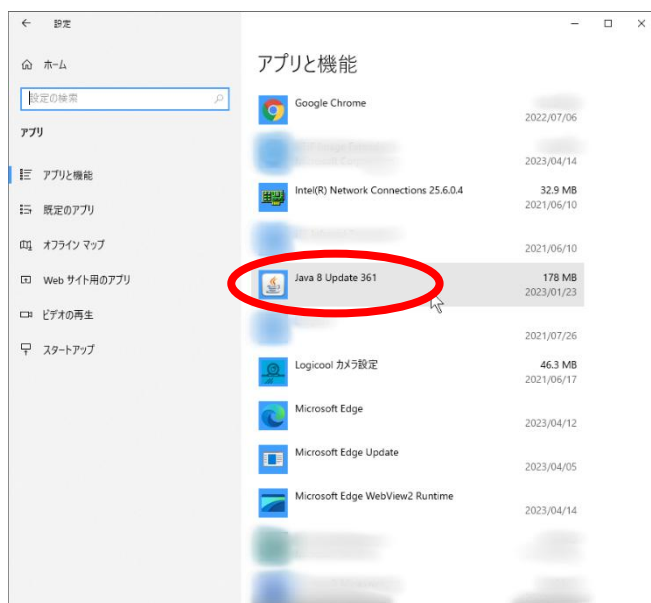


Fig.3 アプリと機能画面

インストール済みの場合は P3 の(a)(ア)インストール済みの場合と同じ手順で Java の情報を確認してください。

インストールされていない場合は次項へと進んでください。

インストール済みでバージョン情報が「バージョン 8 の更新 441」より新しい場合は、一度アンインストールしてから次項へと進んでください。

2.2.2 Java 実行環境のインストール

Web ブラウザで以下の URL にアクセスし、Java SE Runtime Environment 8u441（または Java SE

Development Kit 8u441) のダウンロード、およびインストールを行います。

Oracle のアカウントを持っていない場合は事前に会員登録をお願いします。費用はかかりません。
※2025 年 8 月現在。

<https://www.oracle.com/jp/java/technologies/javase/javase8u211-later-archive-downloads.html>

(ア) 画面下へとスクロールしていき、「Java SE Development Kit 8u441」で以下を選択します。

- 32 ビット版の場合 → jdk-8u441-windows-i586.exejdk-8u441-windows-i586.exe
- 64 ビット版の場合 → jdk-8u441-windows-x64.exe

Windows x86 Compressed Archive	119.72 MB	jdk-8u441-windows-i586.zip
Windows x86 Installer	143.35 MB	jdk-8u441-windows-i586.exe
Windows x64 Compressed Archive	123.33 MB	jdk-8u441-windows-x64.zip
Windows x64 Installer	151.22 MB	jdk-8u441-windows-x64.exe

(イ) ダウンロードしたインストーラを起動し、Java をインストールしてください。

(ウ) インストール後は 2.2.1 Java 実行環境の確認の手順で再度 Java のバージョンを確認してください。

2.3 設定値のバックアップ

アップデートツール（unifiedHost）によるアップデートを行うと、本装置のネットワーク設定（IP アドレス、ゲートウェイ、サブネットマスク、DNS アドレス）を除くすべての設定値が初期値に変更されます。

※HTTP ポート番号も初期値の 80 に戻る場合があります。

そのため、アップデート前に設定値の保存（エクスポート）を行い、アップデート後に保存しておいた設定値の復元（インポート）を行うことで、アップデート前の監視設定・スケジュール設定・コマンド設定等を復元することができます。

2.3.1 設定値の保存（エクスポート）

設定画面の設定サブメニューから「設定値の保存と復元」項目をクリックすると、本装置の設定値をファイルに保存（エクスポート）、またはファイルから復元（インポート）する設定値の保存と復元画面（Fig.4）を表示します。

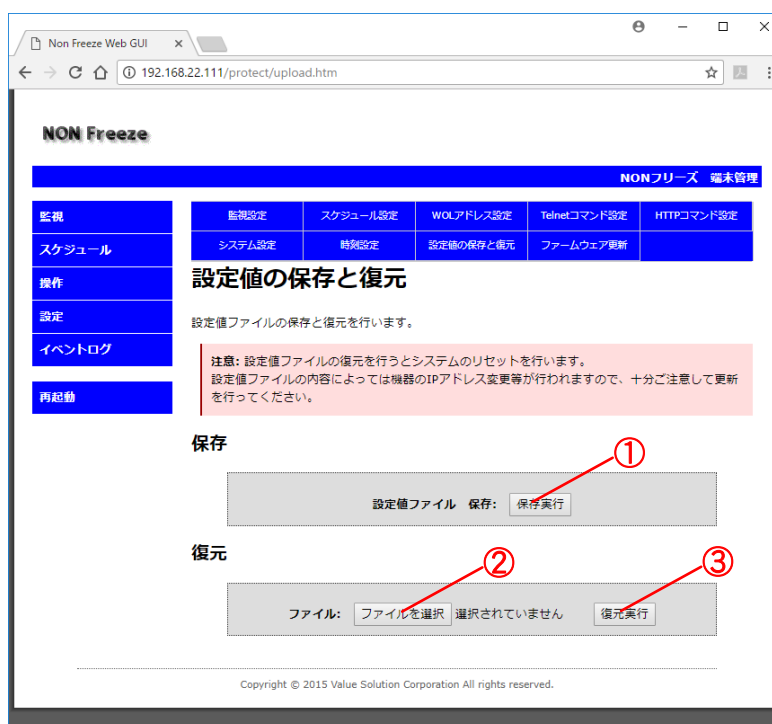


Fig.4 設定値の保存と復元画面

①	保存実行	すべての設定値を 1 つのファイルにエクスポートします。
②	ファイルを選択	読み込むファイル名を選択します。
③	復元実行	『②ファイルを選択』で読み込んだ設定値ファイルをインポートします。

上図 Fig.4 にて、①「保存実行」ボタンをクリックすることで作業 PC に設定ファイルが保存されます。ファイル名は以下の命名規則に従って自動生成されます。

param_v バージョン番号_ip04_dYYYYMMDD.xml (例：param_v02010002_ip04_d20250630.xml など)
 YYYY： ファイルを作成した年 （“2025” など）
 MM： ファイルを作成した月 （“06” など）
 DD： ファイルを作成した日 （“30” など）

3. アップデート作業

3.1 アップデート作業

3.1.1 unifiedHost の起動

圧縮ファイルを解凍したフォルダにて、Java Archive ファイル (unifiedHost-1.19.1.1.jar) をダブルクリックしてアップデートツールを起動します。

正常に起動すると、Fig.6 のようなウィンドウが表示されます。

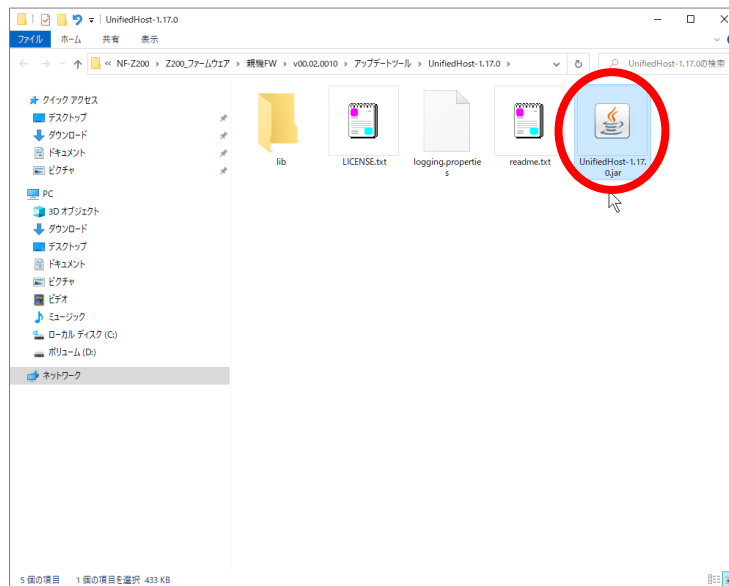


Fig.5 unifiedHost アイコン

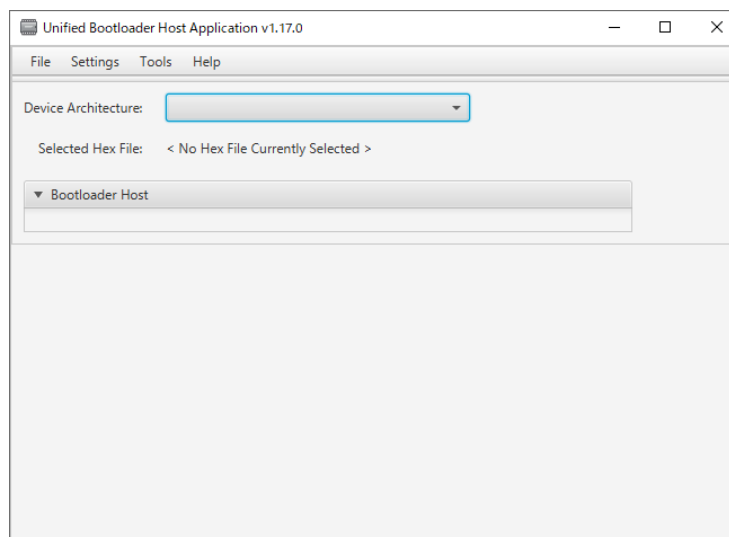


Fig.6 アップデートツール(起動画面)

3.1.2 unifiedHost のパラメータ設定

Device Architecture 設定、Selected Hex File 選択、Protocol 設定、Settings 設定を行います。

Device Architecture 設定

Device Architecture: 右側のプルダウンメニューから、『PIC32MK¥PIC32MX¥PIC32MZ¥SAM MCUs』を選択します。

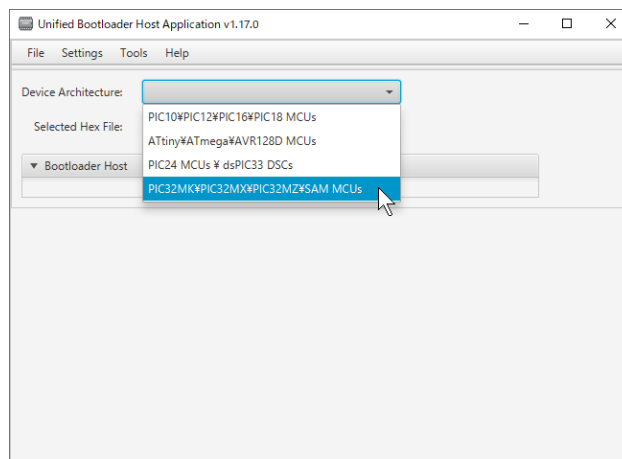


Fig.7 Device Architecture 設定

Selected Hex File 選択

メインメニューの **Open/LoadFile(*.hex)** にて、ファームウェアファイル「NF-Z200_update_v02.01.0002_4IP.hex」を選択します。

正常にファームウェアファイルが読み込まれますと、**Selected HEX File:** 右側に読み込んだファイル名が表示されます。

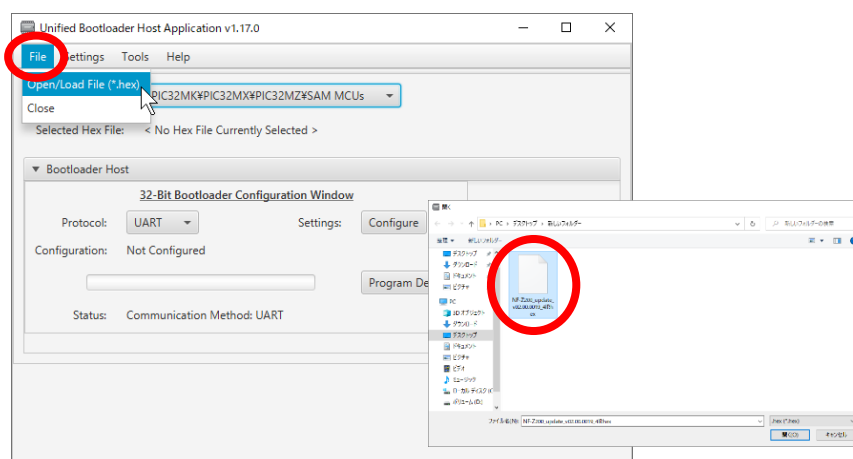


Fig.8 Selected Hex File 選択

Protocol 設定

Protocol: の右側のプルダウンメニューから、『UDP』を選択します。

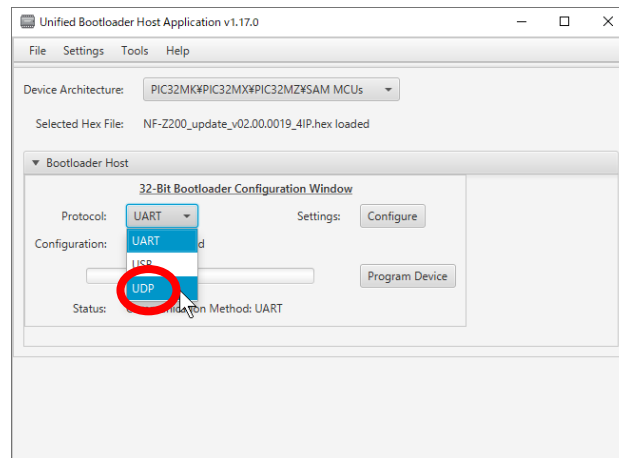


Fig.8 Protocol 選択

Settings 設定

Settings: の右側の Configure ボタンを押下して、NF-Z200/JP の IP アドレスを入力します。

Port Number: は初期値の『6234』から変更しないでください。

Apply ボタンを押下すると、**Configuration:** の右側に IP アドレスとポート番号が表示されます。

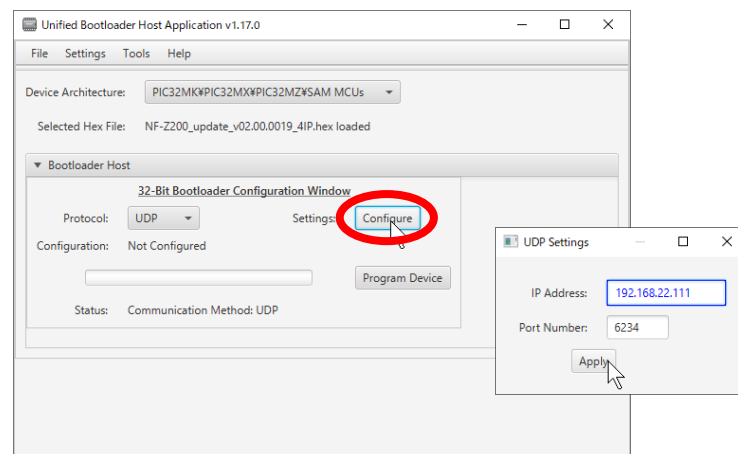


Fig.9 Settings 設定

Console 表示

メインメニューの **Tools** から **Console** をクリックし、Console ウィンドウを表示します。
Console ウィンドウには、アップデートツールの動作状況が表示されます。

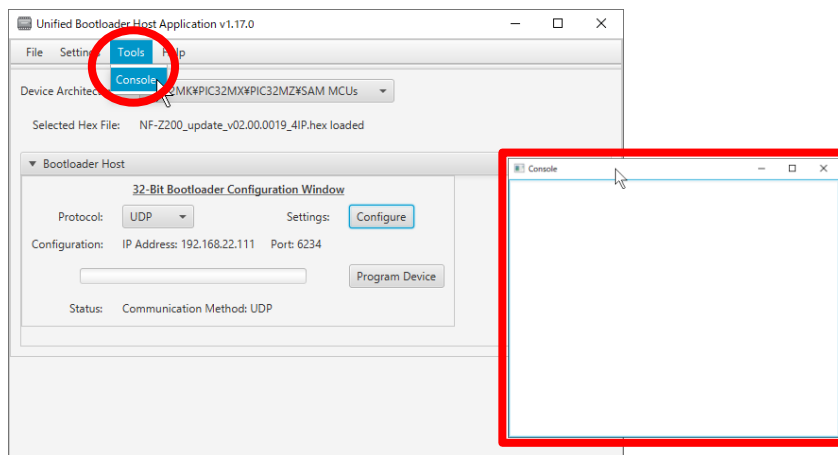


Fig.10 Console ウィンドウ

3.1.3 本装置のファームウェア更新

作業 PC の Web ブラウザで本装置の Web 管理画面を表示し、**設定 -> ファームウェア更新** をクリックします。

表示ページ下部の『NON フリーズをリセットする』ボタンを押下します。

本装置の前面 LED (Status LED) が高速点滅 (30 秒間) します。

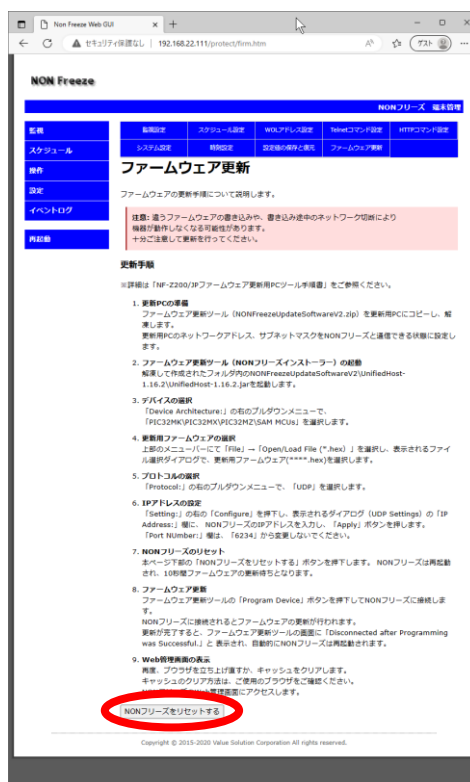


Fig.11 ファームウェア更新画面

3.1.4 unifiedHost からの更新ファームウェア インストール

本装置の前面 LED（Status LED）が高速点滅（30 秒間）している間に、アップデートツール画面の『**Program Device**』ボタンをクリックすると、ファームウェアファイルの書き込みを実行します。

書き込み中に『**Program Device**』ボタンを 2 度押ししないようご注意ください。 アップデート失敗となる恐れがございます。

『**Program Device**』ボタンをクリックするまでに 30 秒間経過してしまった場合には、**3.1.3 本装置のファームウェア更新**に戻り、再度『**NON フリーズをリセットする**』ボタンを押下します。

Console ウィンドウには、アップデートツールの動作状況が表示されます。

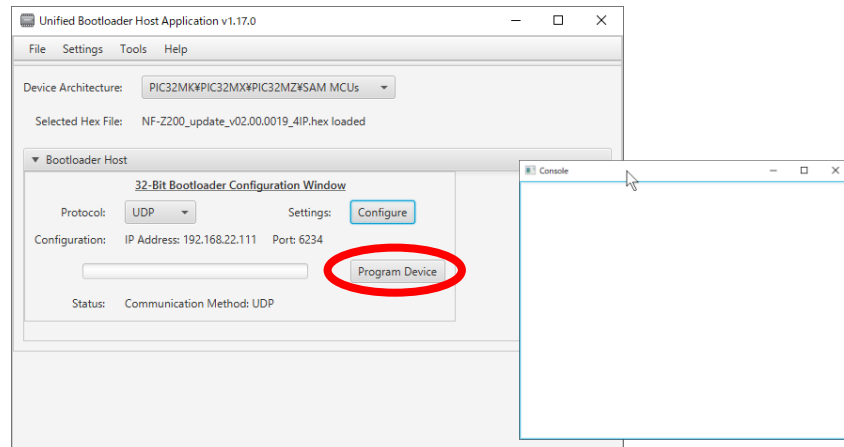


Fig.12 アップデートツール(Program Device)

3.1.5 本装置の起動確認

アップデートが正常に完了しますと、Console ウィンドウに下記のように表示されます。

Console ウィンドウで Programming Flash が表示されてから Flashed Programmed と表示されるまで 60 秒程度を要します。

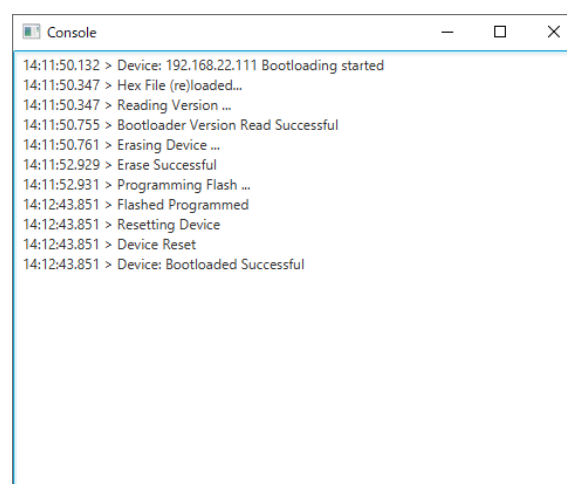


Fig.13 Console ウィンドウ

Console ウィンドウに『**Device: Bootloaded Successful**』が表示されると、本装置がソフトウェア再起動します。なお、本装置では、ソフトウェア再起動中も前状態のアウトレット出力を保持しています。

3.1.6 設定値の復元（インポート）

作業 PC の Web ブラウザで本装置の Web 管理画面を表示し、**設定 -> 設定値の保存と復元**をクリックします。

復元メニューの『ファイルを選択』ボタンを押下し、2.3.1 設定値の保存と復元（エクスポート）で退避した設定ファイルを選択し、『復元実行』ボタンを押下することで以前の設定に戻すことができます。

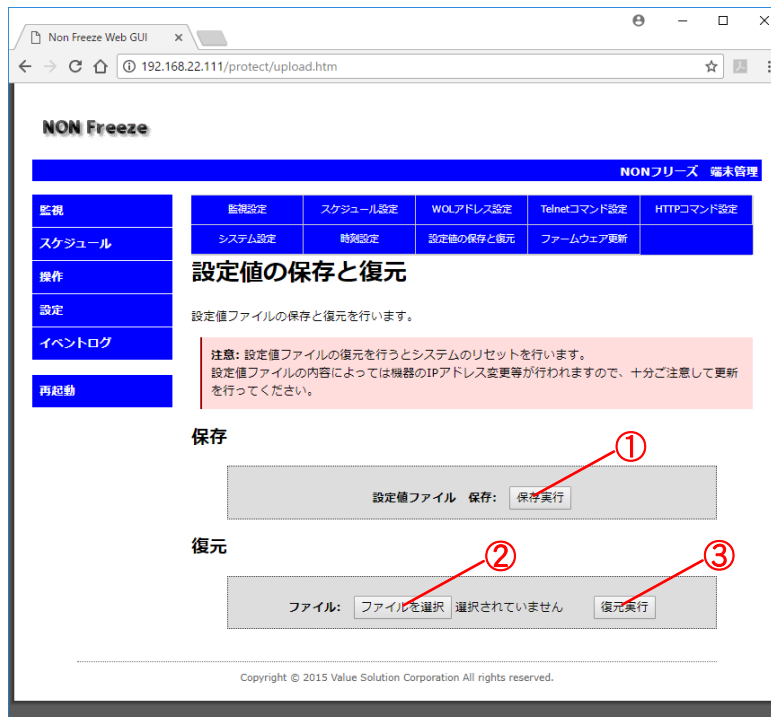


Fig.14 設定値の保存と復元画面

①	保存実行	すべての設定値を 1 つのファイルにエクスポートします。
②	ファイルを選択	読み込むファイル名を選択します。
③	復元実行	『②ファイルを選択』で読み込んだ設定値ファイルをインポートします。

設定値をインポートすることで、本装置の IP アドレスが設定値ファイルに保存された値に変更されます。

4. 確認

4.1 起動の確認

ファームウェアの更新が問題なく完了したことを確認します。

4.1.1 本装置の起動の確認

作業 PC の Web ブラウザから、本装置の Web 管理画面が問題なく表示できることを確認してください。

4.1.2 設定データ復元の確認

本装置の Web 管理画面から、各種の設定（システム設定、監視設定、コマンド設定、スケジュール設定など）が復元されていることを確認してください。

4.1.3 作業 PC の環境復元

作業 PC から、アップデートツールおよびファームウェアファイルを削除します。

Java の削除を行う場合は、コントロールパネルあるいは設定->アプリと機能 からアンインストールを実行してください。お客様環境で新しいバージョンの Java を必要とする場合は適宜必要バージョンの Java を再度入手してください。

4.2 ファームウェア更新に失敗した場合

間違った操作や間違ったファームウェアファイルの読み込み、更新中のネットワークの障害などにより、本装置が正常に動作しなくなる可能性があります。 十分な注意のもと、管理者の責任においてファームウェアの更新を行うようにしてください。

万が一、本装置が起動しなくなってしまった場合は、弊社までお問い合わせください。

5. その他

5.1 保証について

保証期間

本製品の保証期間は、ご購入日から 1 年間とします。

ここでいう保証は、ご購入された本製品単体の保証に限ります。

本取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった使用方法で保証期間内に故障した場合、無償修理（もしくは代替機交換）をさせていただきます。

※ 機器の交換作業は、お客様で実施をお願いします。

※ 交換依頼時の当社までの送料はお客様にてご負担ください。

修理のご依頼方法は、次項の「5.2 修理のご依頼」（P.16）を参照してください。

保証の適用外について

前記、保証期間内においても、次項のいずれかに該当する場合は有償修理とさせていただきます。

1. 本取扱説明書上の使用方法及び注意事項に反した取扱いによる故障
2. お買い上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷
3. 自然災害（火災・地震・水害・落雷などの天災）、電源電圧の異常、落下などを由来する故障および損傷
4. 日本国内以外でのご使用による故障および損傷

また修理調査の結果、製品に異常が認められなかった場合においても、修理調査技術費用をお客様にご負担頂くことがあります。

保証の限度

本製品の故障、および本製品の使用または使用不能に関して生じた直接的および間接的ないかなる損害（逸失利益、機会損失を含みますがこれらに限らないものとします）について、弊社はその責を一切負わないものとします。

5.2 修理のご依頼

本装置の修理のご依頼手順について、次にまとめます。

1. 本取扱説明書を再度ご確認ください、操作方法及び運用方法に間違いがないことを確認ください。
2. LAN 経由で本装置にアクセスが可能な場合には、設定値のバックアップをしてください。その方法については「2.3.1 設定値の保存（エクスポート）」（P.7）を参照ください。
3. 画面上に不具合内容が表示されるような場合には、そのスクリーンショットなどを取得してください。
4. 「5.3 お問合せ先」にご連絡いただき、次の内容をお伝えください。
 - 貴社名
 - 担当者名
 - 貴社連絡先
 - 保証の有無
 - 不具合内容
 - 代替品の要否
 - スクリーンショットなどの資料
5. 弊社から、お客様の依頼に応じて代替機を送付します。
6. お客様ご自身にて故障機と送付代替機を入れ換えて頂き、設定値のバックアップがあればそれを読み込ませ設定内容を復元、設定ファイルがなければ Web 画面から再度設定を行い、代替機での仮運用を開始します。
7. 故障機はお客様費用負担にて弊社まで返送して頂き、修理完了後すみやかに返送致します。（修理期間は状況によっては 2 週間以上期間を要する場合があります）
8. 修理完了機が着荷後、お客様ご自身で代替機と入れ替えて頂き、再度設定値を読み込みます。
9. 取り外した代替機はお客様費用負担にて弊社までご返送ください。

保証期間内では修理費用、修理部品代は無償です。 但し、代替機をご利用の際には、その輸送費はお客様のご負担となります。 有償修理の場合には修理調査費用、修理部品代、輸送費をお客様のご負担とさせていただきます。

5.3 お問い合わせ先

技術的なお問合せ、修理のご依頼につきましては下記までご連絡ください。なお電話はつながりにくい場合がございますので、できる限り Email にてお問い合わせをお願いします。

バリューソリューション株式会社

〒210-0006 神奈川県川崎市川崎区砂子 1-7-5 タカシゲビル 6 階

電話番号： 044-400-1250

E-mail： support@value-solution.co.jp

URL： <https://value-solution.co.jp/contact/>